

# 熊本地域医療センターだより

通算189号

2月号

院長 杉田裕樹

令和3年(2021年)2月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

2021

2

月号

## 熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。  
紹介してよかった。  
働いてよかった。  
そんな病院をめざします。

## contents

「友達の輪～Relayトーク 第9弾」	.....	P1
手術前の新型コロナウイルス検査について	.....	P2
コロナ禍の臨床検査部	.....	P2
コロナ禍の医局	.....	P3
年末年始の外来業務を終えて	.....	P3
マグネットネイルにご注意を	.....	P4

## 「友達の輪～Relay トーク 第9弾」

竹下内科医院 たけした 竹下 せいいち 政一



竹下内科医院竹下政一と申します。味噌天神と交通局の間、市電通りにあります。もともとは祖父が当地で外科医院を開業しました。祖父と父は外科でしたが、私は熊大第3内科に入りました。

(弟は父の医院を引き継いで整形外科をしています) 21年前にそれまで勤務していた熊本地域医療センターを退職して、薬剤師の妻と二人で新規開業し、現在に至ります。妻は内視鏡技師の資格を勉強して取ってくれました。感謝しています。

地域医療センターについてですが、不安ながら何とか開業できたのは医療センターで鍛えられたおかげです。もちろん、困ったときに頼りになる先生方が後方にひかえて下さっていることも大きいです。私が辞めた時に在籍しておられた先生方が、まだ何人もおられます。清住先生にはずっとお世話になっています。総胆管結石、胆管炎の方は本当に多いですが、いとも鮮やかに治療して下さいます。高群先生は以前大学病院ICUでご一緒したときから、個人的には家族が病気で入院した時にもお世話になりました。師長さんはじめスタッフの方が皆様優しいと当院の患者さんたちからも評判です。

時々ですが、出勤協力医として勤務させていただき、外の風を感じて帰ってきます。先日は発熱外来用の診察室を体験しました。新型コロナウイルス感染症に関係する先生方のご苦労を思い、自院と比較して対応の足りない点などを考えました。柏原先生、藤井先生が作られた診療の指針が実用的で助かっています。救急外来の運営については協力医の中でもいろいろな考えがあり、最大公約数的にまとめていくことは本当に大変だと思います。

最近立て続けに地域医療センターの先生方に急患を引き受けていただいています。具合が悪くなるまで我慢して夕方や週末になることも多く、ご迷惑をおかけして申し訳ないといつも思っていますが、専門外でもいやがらずに受けていただいて感謝申し上げます。比較的中規模の病院で医局がコンパクトなので、他の科の先生方に相談しやすい雰囲気は私たちの時代にもあったように感じています。大変ですが病院の建て替えはぜひ必要と思います。皆様の英知を結集してよい病院が出来ればと願っています。

今年はベートーベンイヤーです。現状は「闘争から勝利へ」というわけには簡単にいきそうではなく、重苦しい雰囲気がずっとあります。私自身が出来ることは限られていますが自分が置かれた立場で責任を果たしていきたいと思えます。

さて、次の先生には明午橋内科クリニックの森下祐子先生をお願いしています。熊大第3内科の後輩です。ご主人の森下昭治先生は私と大学の同級で熊本中央病院の放射線科部長です。

## 手術前の新型コロナウイルス検査について

外科医長 おかべ 岡部 ひろひさ 弘尚



COVID-19の勢いはとどまることなく、感染率の増加した変異型といったウイルスの進化もみられ、ワクチンや抗ウイルス薬の普及が切に望まれる状況です。このような状況から、当センターでは12月第1週目より全身麻酔による

予定手術例には全例PCR検査を行うこととなりました。流れとしては、外来で入院前1週間以内に検体を採取してPCRセンターで検査を行い、翌日には結果が判明し、陽性であった場合は本人へ連絡します。金曜日の場合は土曜日に外来担当医へ直接連絡が届きます。幸い、これまで予定手術前のPCR検査で陽性例は認めませんが、陽性であった場合は疾患の病状に合わせた調整が必要となります。膀胱癌やその他の進行癌といった時間的な余裕の無い疾患の場合は、その最適なマネジメントが非常に難しいと思われまます。一方、緊急入院、手術が必要な例には、この限りではありません。熱

の有無にかかわらず、全例抗原検査を外来で行い、陰性を確認してから入院、手術といった流れになっております。もし陽性であれば、全身麻酔による医療者へのウイルス暴露の危険があるだけでなく、術後の経過に新型コロナウイルス感染が悪影響を及ぼす可能性があるため、緊急疾患が時間的に猶予のある場合は、いったん保存的治療で経過を見るか、コロナ重症者の診療体制の整った施設へ早急に手術を含めた治療をお願いするといったことも判断が必要になります。絞扼性腸閉塞や血栓症、ショックを伴う腹膜炎といった時間的な猶予の無い症例の場合、医療者サイドの感染のリスクを最大限注意しながら、当院で緊急手術を行わざるを得ない場合が想定されます。様々な未曾有の問題に対する対策を講じる必要があります。杉田院長をリーダーとして、各委員会や診療科にて日々話し合いを行いながら、病院全体が一丸となって最良の方法を協議しております。1日も早いwithoutコロナの日常が戻ってくることを願っております。ご理解の程よろしくお願いいたします。

## コロナ禍の臨床検査部

臨床検査部 やまさき 山崎 こうじ 浩二



昨年春、新型コロナウイルスの危険性が報じられて以降、当院においても以前より厳しい感染対策が行われるようになりました。部門毎に院内の感染対策委員会から視察を受け、各部門専用の感染対策マニュアルを作成することになりました。さらに、臨床検査

部では検体検査室、生理検査室、超音波検査室それぞれの業務に応じたものを作成することになりました。

その中でも、検体検査室は検体とパソコンや分析装置等を交互に扱いながら業務を行っていたため、感染対策委員からは多くの問題点を指摘されました。改善策を検討した結果、検査室入口の検体受付（検体置場）を境に緑色と赤色のテープを貼り、赤色テープ以降の検体を取り扱う区域をレッドゾーン（汚染領域）として業務を行うことになりました。また、そのレッドゾーン区域の中で検体分取をする者は常時マスク・手袋・袖なしエプロンを着用し、検体分取をしない者はマスク・手袋のみ着用というPPE（個人用防護具）使用の運用も始めました。パソコンや分析装置類はすべて手袋着用で操作し、操作前にはアルコール消毒剤で手袋を消毒する。筆記用具は机ごとに配置した専用の筆記用具を使用する。紙製のファイル等はすべてプラスチック製に交換し、ことごとくアルコール消毒できる物に交換しました。

清掃に関しては、パソコンのキーボード等は掃除しやすいようサララップでカバーし、さらに、分析装置操作ボタン・電話機・机・ドア取手などの清掃を院内ルール（1日5回）に従い所定時間にきちんと行い、チェック表で管理するようになりました。

特に感染の危険がある新型コロナウイルス検査など、鼻咽頭ぬぐい液を検査材料とする検査は検査室隣接の細菌室で、マスク・手袋・長袖エプロン・アイガードを装着し、新規購入した安全キャビネットを使用して検査するようになりました。

それから、患者に対して直接検査を行う生理検査室や超音波検査室においても様々な感染対策を行いました。検査用ベッドは頻繁にアルコール消毒できるよう、ベッドごとに材質チェックを行い、アルコール消毒できる材質の物に張り替えを行いました。さらに、枕カバーの代わりに使い捨ての防水シートを使用するようになりました。そして、患者が入れ替わる度に、ベッドや装置類の消毒を行うようになりました。

新型コロナウイルス抗原検査の実施やPCR用検体の梱包および委託作業、さらにその検査結果の連絡業務が新たに加わり、新型コロナ関連作業に追われる毎日となりました。

新型コロナウイルスの感染拡大を伝える報道ばかりの毎日ですが、臨床検査部は今後も感染対策委員会、先生方、看護部をはじめとする他部門と一致協力し、しっかりと感染対策を行っていく覚悟でございます。

## コロナ禍の医局

総合診療部長 ささはら 笹原 たかゆき 誉之



この文章を書きながら、ふと数えてみると今年で医局長になって10年目であります。当院の医師・スタッフだけでなく医師会に関係した多くの皆様のお力添えもあり、これまで大過なく医局運営の一端を担ってきました。ところがこの1年で医局も世の中や病院と共に大きく変わりました。

まず、全医師参加の医局会を狭い会場から広い会場に変更し、換気とソーシャルディスタンスを確保しました。更に招集をやめ院内メールシステムを利用した非接触会議にもしました。現在は紆余曲折の末に、第1&3週は新館6階ホールで換気とソーシャルディスタンスに十分配慮しての招集医局会、その他の週は院内メールシステムの非接触会議となっています。もちろん集まったの会議終了後は使用した会場のアルコール消毒の徹底も自分たちでしっかり行っています。これは病院全体の取り組みであり医局も例外ではありません

感染防御の新たな仕組みも導入されました。昼食はこれまで医局隣のテレビのある小部屋（通称医局休憩室）で入れ代わり立ち代わりお弁当（売店で買ったり、自宅からの愛妻弁当だったり）を食べていました。そのような場所で情報交換（患者さんについての相談）等の診療のコミュニケーションが行われてきました。しかし、これも医局周辺への新型コロナウイルス持ち込みや感染予防・拡散防止のため、全ての飲食は医局内の個人スペースのみで可となりました。マスクを外す飲食や歯磨き時の感染防止だけでなく、コンピュータやドアノブ等を介した接触感染対策が強化・維持されています。医局への出入りやコンピュータを触るたびの手指及びキー

ボード・マウスの消毒、毎朝の検温や体調不良時の報告など厳格な健康管理を全員が行っています。当然、病院全体の方針に従い「家を出てから、家に着くまでマスクは外さない」も浸透しています。

院内での講演会や薬品説明会は飲食を伴わなくても中止、各診療科規模の薬の説明会も同様に中止されました。患者に対する面会の禁止と共に、医局ではMR等の出入りも禁止されました。

熊本市医師会各部会の総会や懇親会等もなくなり、ご紹介いただく先生方との顔の見えるお付き合いも叶いません。懇親会で気楽に患者さんのご相談をお受けすることもできません。

加えて、毎月第4月曜日19時から院内で開催されていた「地域医療センター勉強会」も昨年2月から中止となりました。少し落ち着いた9月には皮膚科Dr.市原の特別講演を病院内感染予防のため熊本市医師会館の会場をお借りして再開し、翌10月には外科Dr.岡部の特別講演を十分な院内感染対策の上ZOOMを使ったオンライン（一部参加型併用のハイブリッド）で多くのご視聴を頂きました。今後も一層感染対策に配慮した勉強会のシステムの改善に努めていきます。

もとより病院規模の忘年会や歓送迎会（花見の宴）、各科規模等の小さな歓迎会や送別会も完全になくなり、気分転換やストレス解消・仕事以外での人間関係の形成に支障が出ています。職場だけでなく、ご紹介いただく先生方とのコミュニケーションにも影響が出ています。

このような状況は簡単に解消されそうになく、上記の様な多くの不都合も当分続くと考えざるを得ません。感染対策とより良い病診連携・より良いコミュニケーションの両立を模索する日々が続いています。

## 年末年始の外来業務を終えて

外来・検査看護師主任 なかしま 中島 あやこ 理子



令和2年度、年末年始の休日夜間急患センター業務報告をさせていただきます。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、例年1日400~500名ほどの受診者が訪れる年末年始の休日夜間急患センターは、ロビーの3密が課題です。そこで患者さんの滞在時間を短縮して密を避けることを目的に、予約システムを導入いたしました。予約システムは、準備期間が不十分なままの導入でしたが、事務部門と外来看護師で試行錯誤しながら運用いたしました。発熱患者に限った予約システムですが、その効果は絶大であり、待ち時間の短縮はもとより、ロビーの混雑がない初めての年末年始になりました。

また、新たに設置された発熱外来棟による診療が開始され、「コロナを入れない・拡げない」をコンセプトに事務員と看護師が連携して、極寒の外で発熱患者のスクリーニングとトリアージを実施いたしました。特に真夜中の外での待機は過酷でした。しかし、一つ屋根の下励まし合い、支え合いながら乗り切りました。コロナ禍の年末年始は、組織のチームワークを高める機会になったと思います。

最後に、期間中の受診者数は12月31日をピークに741名（前年度2126名）、そのうち発熱外来受診者は374名でした。今年度の年末年始体制に十分なトレーニング期間が持てない中、大きなトラブルなく診療を終えることができましたのも、ご出勤して頂いた先生方のご理解とご協力のお陰です。心より感謝申し上げます。

# マグネットネイルにご注意を

放射線科部長 まつかわ 松川 てつや 哲也



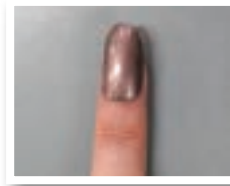
いつも当院放射線部に画像診断のご依頼ありがとうございます。今回はマグネットネイルとMRIに関して情報提供をさせていただきます。

医師会の先生方はマグネットネイルというものをご存じでしょうか。自分は正直知りませんでした。「マグネットネイル」とは、鉄粉入りの専用ジェルを塗り、乾く前に磁石をあてることでジェル内の鉄粉を動かす模様を作り出すというもので、磁石に引き寄せられた鉄粉が、手描きでは簡単に描けそうもない複雑な模様を作り出すことで、世の中で流行しているネイルです（写真参照）。ここで問題となるのはジェル内の鉄粉で、マグネットネイルをしたまま強力な磁力が存在するMRI検査を施行すると熱傷が発症したり、ネイル内の鉄粉で火花が発生したり、固定が不十分なネイルの一部が磁力で牽引され剥離しMRI装置に吸着して故障の原因となるとされていることです。しかもマグネットネイルは、MRI検査直前に簡単に除去することはできませんので、MRI検査でせっかく来院して頂いても当日は検査できず、ネイルを除去し後日検査に来院して頂かないといけないうこととなります。実際、当院で今まで2名の患者さんに検査延期の事例を経験しています。

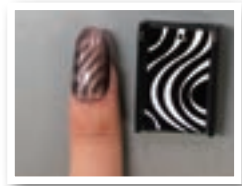
また、マグネットネイルではありませんが、もうひとつ人気のあるネイルにジェルネイルというものがあるようです（こちら自分も知りませんでした）。ジェルネイルはゲル状の樹脂を硬化させることで形成するネイルのことで、硬化にはUVライト

を使うのが特徴のようです。仕上がりがとても自然で、持ちも良いのがうりのようですが、ジェルネイルの中で色味のあるカラージェルの中にはチタンやクロムなどの金属が含まれていることがあるようで、ジェルネイルの場合もMRIを施行すると熱傷の危険性があるとされています。ジェルネイルはマグネットネイル以上に除去するのが難しく、マグネットネイル同様、後日ネイルを除去した後の検査となります。

そこのお願いです。MRI検査を予約する場合は、患者さんにマグネットネイルや色つきのジェルネイルを施行しないように、もし施行後であれば、必ず除去して検査に行くようにご指導下さい。ご面倒ですが、よろしくお願い致します。



磁石をあてる前



磁石をあてた後（右は磁石）

## 追伸

現在1.5テスラMRIの更新のため、当院の検査がMRI台体制となっています。すぐ予約できるMRI検査をウリにしていた当院ですが、現在はかなり待ち時間が発生しています。大変ご迷惑をおかけしています。4月稼働を予定に現在工事進行中です。新しいMRIになることで、今までより検査時間がわずかですが早くなり、以前よりさらに予約を取りやすくなるのではないかと期待しています。もうしばらくお待ち下さい。

## 熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時/2021年2月22日(月)  
19:00~20:00

会場/ Web 講演会

※COVID-19拡大に伴い、2月からは当面の間院内会場での直接参加を中止とし、Web講演会のみでの聴講とさせていただきます。状況が改善すれば院内会場への参加を再開する予定です。

※申し込み案内は熊本市医師会ニュースにてお知らせいたします。

※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

### ①症例報告

若年男性に発症した自己免疫性肝炎の一例(仮)  
消化器内科 竹野 洋司 医師

### ②特別講義

高齢発症てんかん(仮)  
CC32:意識障害  
脳神経外科 北村 伊佐雄 医師

## 熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら  
☎096-363-3311(代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら

※ベテラン看護師が対応いたします!  
(平日9:00~17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)

☎096-366-1323

## 編集後記

Y 友達の輪~Relayトーク第9弾では、竹下政一先生にご寄稿いただき病院の建て替えの後押しもしていただきました。ありがとうございます。当院のコロナ対策も一読いただき、安心して患者様のご紹介をお願いいたします。

K マグネットネイル・ジェルネイル。私は、職業柄ネイルをすることはありませんが、最近、きれいにされている方が多いです。しかし、MRI検査に適していないことを、今回初めて知りました。知らない事が、まだまだありそうです…。

H 最近、ついに痩せるためにトレーニングを始めました。動画でお腹周りを引き締めるトレーニングを見ながら実践しています。スタート翌日から筋肉痛に襲われました…。半年後までに、シックスパックを作ることをごに誓います!!